事業名：「学びの変革」パイロット校事業
学校名：安芸太田町立加計中学校
所在地：山県郡安芸太田町加計５１０７－１
ＨＰ：http://www.akiota.jp/kakechu/
学級数：　３学級，６４　名　（H27.11.1現在で記入）

１　研究の概要

（１）研究主題及び研究のねらい

研究主題

他者との対話の中で知識や考えを協調的に構成し， その先の新しい問いを見出す力の育成 ～建設的相互作用を基盤とした授業づくりを通して～

本校生徒は，生活面では落ち着いており，何事にも一生懸命に取り組み，学習面でも基礎的・基本的な力を着実に身に付けてきている。一方で，受け身な面があり，自ら課題を解決しようとする姿勢がやや弱く，広島県「基礎・基本」定着状況調査や全国学力・学習状況調査では，活用力に課題がある。背景として，生徒が主体的に課題解決をしたくなる学習課題の設定や協働して課題解決する場の工夫等が十分ではなかったと考えられる。

これらの実態を基に，本校の生徒に身に付けさせたい資質・能力を　①コミュニケーション能力　②論理的・建設的批判能力　③主体性・積極性　④回復力・耐える力　⑤自らへの自信　⑥高い志の６つに焦点化した。そして，これらを身に付けさせることで，本校の目指す「他者との対話の中で知識や考えを協調的に構成し，その先の新しい問いを見出す力」を育成したいと考えた。

これまで本町では，協調学習（東京大学CoREF提唱）【他人の考えを聞いたり，他人に説明したりする活動を中心にして，少しずつ異なる見方を組み合わせて問題をうまく解きながら学習者が活動的(active)・構成的(constructive)・対話的(interactive)に学ぶ学習】に取り組んできた。協調学習を引き起こす授業づくりをすることは，広島版「学びの変革」アクション・プランにおける能動的な学び・学習者基点の学び・深い学びを促す授業づくりにつながるものである。そこで，協調学習を引き起こす１つの手法として，「知識構成型ジグソー法」を取り入れた授業づくりを充実させることとした。

（２）研究の内容

「知識構成型ジグソー法」を用いた授業では授業前後の生徒自身の考えの変容の過程を大切にしている。一人では解決しにくい課題について，①エキスパート活動②ジグソー活動③クロストークの３つの対話の場を通して，建設的相互作用【自分や他者の考えをインプットしたりアウトプットしたりすることを繰り返しながら，個々が自分の考えをよりよいものにしていくこと】を基盤とし，学習者自らが学びを深めていくことができる授業実践に取り組んだ。

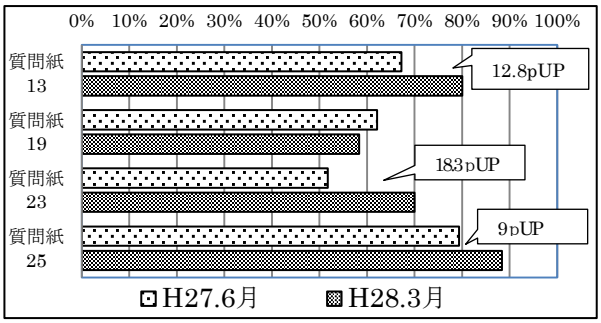
今年度，協調学習の公開授業を17回実施し，すべての学年，国，社，数，理，英，音，保体，道徳，総合において授業実践を行った。また，単元を通して，付けたい資質・能力を育成するという視点で日々の授業も行うよう共通理解をして取り組んだ。

２　成果と課題

パイロット校事業の検証に用いる質問紙調査を全校生徒に６月と３月に実施した。次のグラフはその結果の一部である。

結果から，生徒は解決する課題に主体的に関わろうとし，友達との対話を通して自分の考えをよくしていこうとする学び方を身に付けつつあることが分かる。また，授業後にはもっと次のことが知りたくなるなど新しい問いを見出し，学び続ける気持ちも育ってきている。一方で，「積極的なコミュニケーション力」については依然，課題があると言える。

質問紙調査　６月と３月の肯定的割合の比較（全学年）



質問紙番号とその内容	
13	授業では，解決する課題について「なぜだろう」「やってみたい」と思う
19	授業では，自分の考えを積極的に伝えている
23	学習の振り返りをするときには「もっと考えてみたいこと」「もっと調べてみたいこと」などを考えている
25	授業では，友達と話し合うなどして，自分の考えを深めたり広げたりしている

（１）成果

○生徒は学習課題へ主体的に関わり，対話を通して自分の考えをよくしようとする学び方を身に付けてきている。

○学習を通して「その先の新しい問い」を見出だそうとする生徒が増えてきている。

○協調学習の実践が広がり，各教科で，「課題発見・解決学習」の単元構成を考え，主体的な学びを展開できる授業づくりに創意工夫を凝らすことができた。

（２）課題

●積極的に自分の考えを伝えることに課題がある。

●生徒の主体的な学びを創造するためには教師の授業観のさらなる変革が必要である。

●本校で付けたい資質・能力について，生徒の学びの見取り方や評価の在り方を今後検討する必要がある。

３　今後の改善方策等

生徒の可能性を信じ，対話を通して学びを深める協調学習の授業実践を積み重ねていく。評価の在り方についても具体的方策を検討していく。日々の授業の中においても，ねらいを明確にした対話の場を積極的に取り入れ「考え，関わり，学び合う」ための態度を向上させていくことが必要である。全教職員で協働して課題解決に向け取り組んでいく。